

自転車安全ガイドライン 2013

DOWNHILL では、日帰り自転車企画から北海道チャリ等の長期企画まで、毎年様々な自転車企画が立っています。ただ、自転車での事故は場合によっては重大な事故になることがあります。しかるべきことを十分に注意して、安全なツーリングを心がけましょう。

原則的なことは以下のサイトで。(図も分かりやすいです)

警視庁自転車交通ルール <http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotu/bicycle/rule.htm>

企画中に割と見落とししやすいこと。

- 走行中の車を右側から追い越さない。
- 分隊のときは黄色信号で止まりたい。
- 逆走をしない、つまり**右側車線を走らない**。
- **一時停止では必ず止まること**。
「止まれ」の標識を見落とさない。**赤の点滅信号の場合も同様一時停止**。
- 停止線の前では横断者、自転車がいるか明らかでないときは停止できるように速度を落として進む。
- 車道に入るときは**後方確認**してから、車と十分にタイミングをとってから入ること。
それで最後尾が遅れることもあるので、先頭は後方の様子を確認すること。特に新入生は頑張って追いつこうとして無理に渡ろうとするので上回生は留意すること。

- 自転車通行可の標識のない歩道には入らない。**歩道では歩行者優先**。車道が危険な場合は入っても良いという例外規則があるがあくまで**歩道は歩行者優先という意識を持つ**。
- 信号のない横断歩道の前にある菱形のマーク、これは「横断歩道または自転車横断帯あり」という意味です。軽車両であるので、渡ろうとしている人がいれば止まること。自転車横断歩道があるときは歩行者用の横断歩道を使わないこと。
- **交差点で右折するときは右折する地点まで直進し、そこで向きを変え、進むべき方向の信号が赤になるまで待つ**。2段階右折。(信号のないところでもこの方法で、交差点の端まで進んでから右折を開始すること。)

- 自転車が走るところは路側帯の車道よりであって、その中ではない。路側帯のデメリットとしては路側帯付近によくあるアスファルトとコンクリートの継ぎ目は、タイヤが引っかかってハンドルを取られやすいということがあります。

またグレーチング(鉄の格子状のもの)で隙間がある場合はタイヤが取られやすい。路面がぬれている際のマンホールも避けましょう。

- コンビニなどの駐車場入り口前は気持ちが緩むこともあって、「左折巻き込みスポット」。

車と並走することは避けるし、徐行で駐車場に入ること。

- 車道と歩道を出たり入ったりするのは避けましょう。車道に入るたび、後方確認することで無駄に時間がかかるし、自動車に迷惑です。(特に新歓時。基本的に車道を走るが交通量が多いところでは歩道に限定するなどあらかじめ考えておくこと。)

- 停車中の車の横を通るときは、ドアがいきなり開いても大丈夫のように 1m 程度は距離をとって、後続車に追い越されないように手で牽制してから通過する。

- 上回生のテールランプの徹底。

- 峠の下りではスピード出しすぎに注意。車間距離を十分にとること(平地の 2~3 倍はとること)。

※ブレーキは前輪ブレーキだけでしないこと。急ブレーキ、急カーブをしないこと。

- 分隊行動のときは先頭、最後尾は経験者がやること。2 人目からは遅い順に配列すること、そして先頭の者はペースを合わせるようにする。隊列で走る場合は十分な車間距離(2~3m)を保つ。

分隊について

- 参加人数が多い場合は分隊をする。分隊の上限は 6 人を推奨するが、経験者が少ないなど隊を増やせない場合は最大 8 人までとする。それ以上は自動車の追い越しの妨げになるので人数を増やさないこと。

- 各分隊同士は適切な間隔をとること。

- 並走はしてはいけない。視野が狭まり危険なことはもちろんですし、後ろの人や他の自動車に迷惑です(しゃべりながら走りたい気持ちもわかりますが)。

手信号を使って、玉突き事故を防止しましょう！

- ① 右折

- ② 左折

- ③ 停止・徐行

- ④ 左側に歩行者や障害物あって、右によけるサイン。(車に伝わるように意識を。)

- ⑤ 障害物・危険物ありのサイン。

① 右折



② 左折



または



③ 停止・徐行



または



④ 右によけるとき



⑤ 障害物・危険物ありのとき



(引用先:<http://www.cb-asahi.co.jp/html/ride-hand.html>
mossylures.blog101.fc2.com)